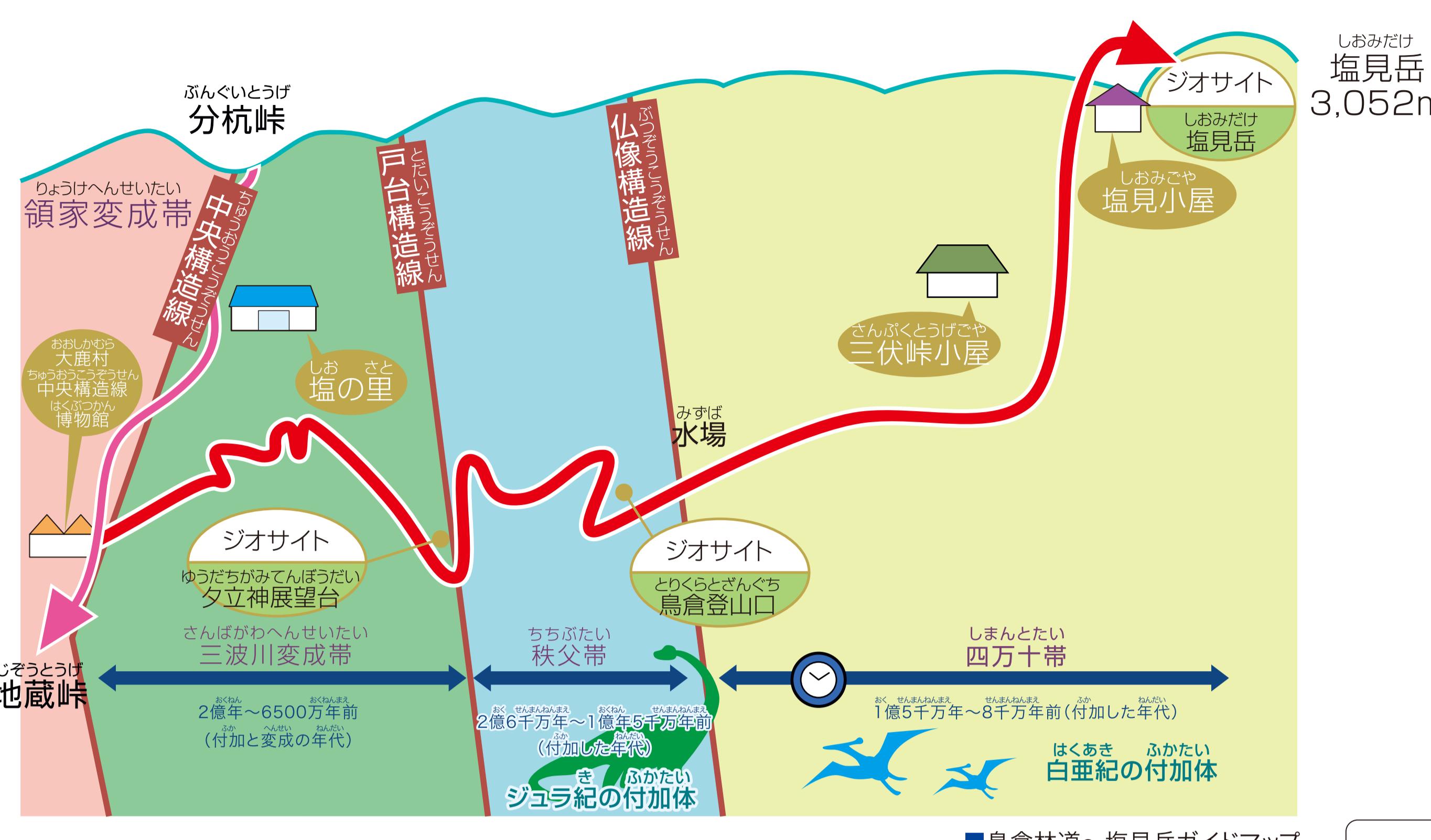


ジオサイト(ジオパークの見所)紹介

⑤ 南アルプス横断ルートII 一鳥倉林道～塩見岳-



大鹿村の鳥倉林道は、村の中心部から夕立神展望台を通って標高1770mの鳥倉登山口まで通じています。夏には登山バスが運行されています。一般車はイヌワシ保護のため、林道終点の約3km手前の駐車場で通行止めになります。鳥倉登山口からは三伏峠を通って塩見岳まで登山道があります。

このルートでは南アルプスの付加体を構成するすべての種類の岩石を見ることができます。

コラム—大鹿の塩(山塩)

塩は昔から海水を煮詰めたりして作られてきました。そのため海のない長野県では塩はとれないはずです。しかし、大鹿村には、海から遠く離れた標高750mの山奥に地下から湧き出る不思議な塩水があり、今でも塩を探っています。この塩水は海洋プレートが沈み込んでいった水が地下深くから上がってきたものと、氷河期に降った雪や雨が地下水としてたくわえられたものとが混ざりあったものとされています。



■緑色岩

夕立神展望台

標高1620mの夕立神展望台からは、烏帽子岳、小河内岳、荒川前岳、赤石岳、大沢岳の山々を一望することができます。

展望台付近の岩石は三波川変成帯の緑色岩であり、林道沿いに大きく現れています。



■石灰岩のかけ

鳥倉登山口

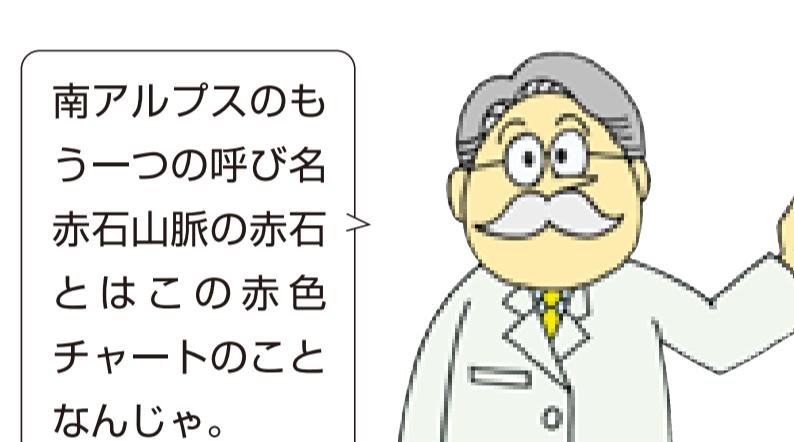
鳥倉登山口では秩父帯の石灰岩がみられます。石灰岩は、海の中のさんご礁や石灰の殻をもつプランクトンが海底にたまつて固まって岩石になったものです。この石灰岩は、南アルプス北部の幕岩、白岩から続いているものです。

豊口山と三伏峠の間に、秩父帯と四十万帯の境界である仏像構造線が通っています。尾根のルート沿いで唯一の水場になっている付近が仏像構造線と推定されています。

塩見岳の赤色チャート

塩見小屋から塩見岳山頂にかけて、四十万帯の玄武岩やチャートを見ることができます。

赤石山脈という名前の由来になった赤色チャートは、鉄分が含まれているため赤い色をしています。

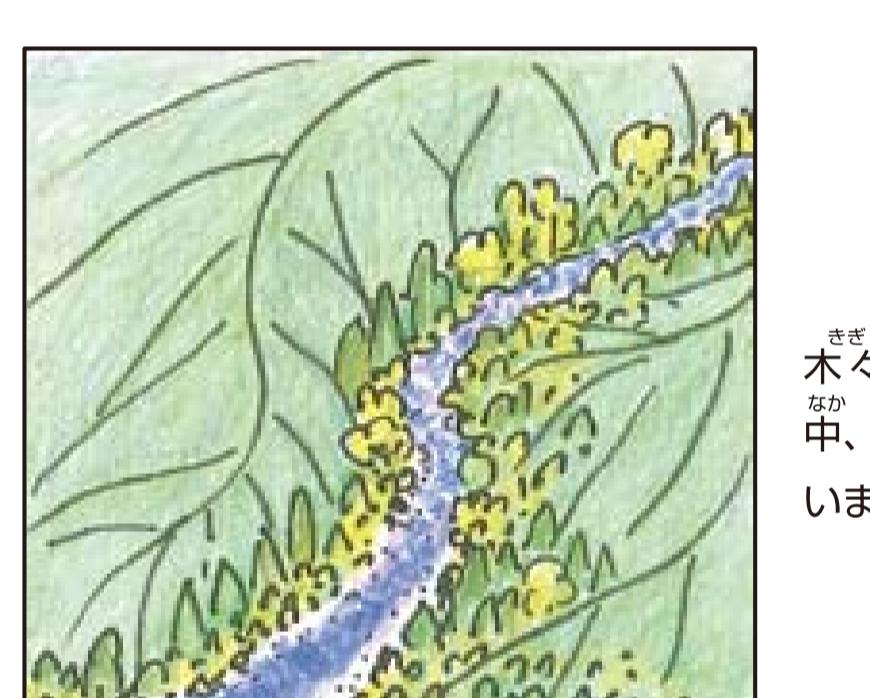


■塩見岳頂上付近の赤色チャート

コラム—三伏峠

三伏峠(2607m)は日本で一番高いところにある峠です。昔は伊那からこの峠を通して山梨県の早川町新倉へ出る伊那街道があり、人々が往来していたそうです。

⑥ 遠山大地変と埋没林 一遠山川に出現した大地震の証拠ー



木々がおおいしげる中、遠山川が流れていきました。

地震がおきる

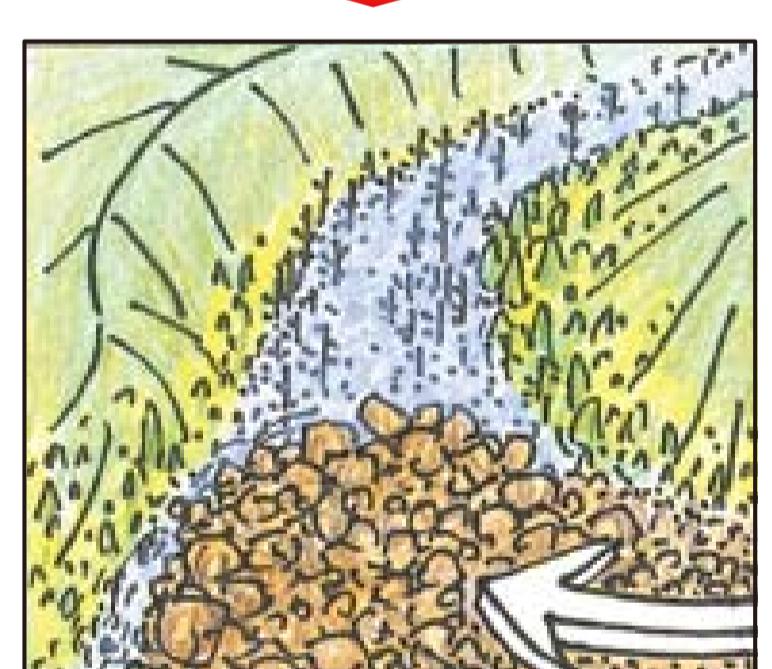
飯田市南信濃(遠山地方)では、714年と1718年の過去2回、大きな地震がおこり、山が崩れて遠山川がせき止められました。特に714年の地震は、規模が大きくなり現在でもその爪跡を多数目にすることができます。その中の一つに埋没林があります。河原に埋まっていた埋没林は、近年、急速に川の底が低下したことによって現れたものです。

714年の地震では

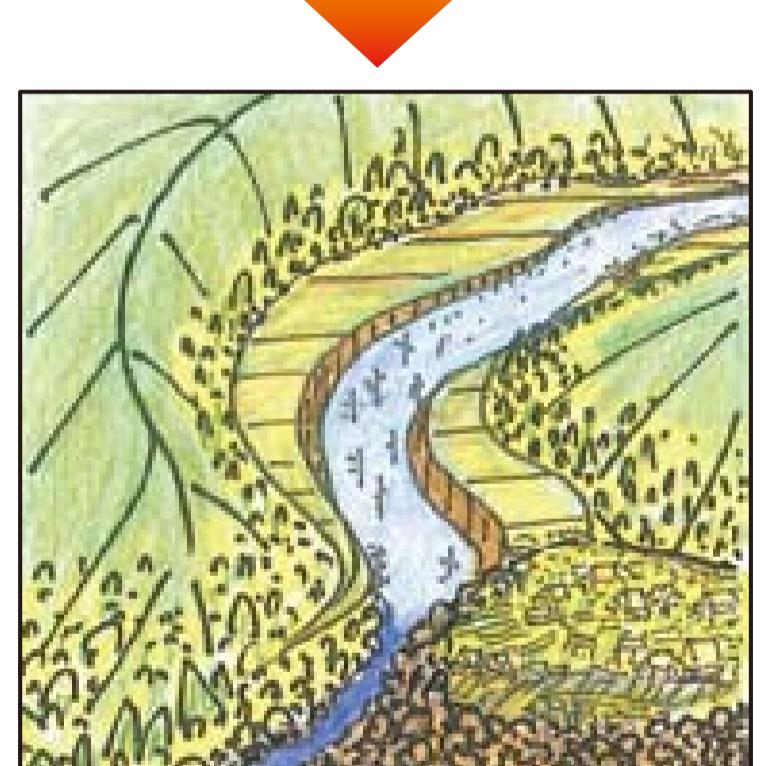
- ①大きな地震がおきた。
 - ②遠山川に流れ込む池口川沿いの山が崩れた。
 - ③池口川と遠山川がせき止められた。
- この時遠山川沿いにあった木々は、せき止められた湖に沈み、流れてきた土砂に埋まって埋没林になった。
- ④その後、せき止められた湖が決壊して洪水がおき、天竜川の下流域で大きな災害がおきた。

これら一連の出来事は、遠山大地変と名づけられました。

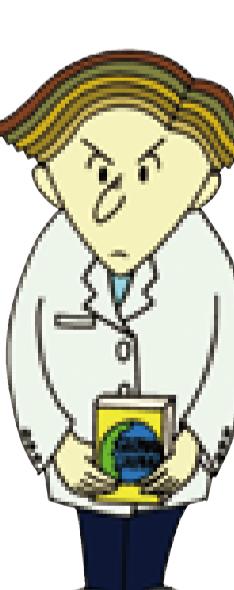
また、埋没林の木の年輪からこの時の年代が調べられ、歴史書に記録された災害の歴史とほぼ一致しました。歴史書を年輪により検証した日本で一番古い事件です。



山で山がくずれて湖ができました。遠山川がせきとめられ川沿いの森林が湖に沈みました。



埋没林は地震があつたことを伝える船人です。



■現在見えている埋没林



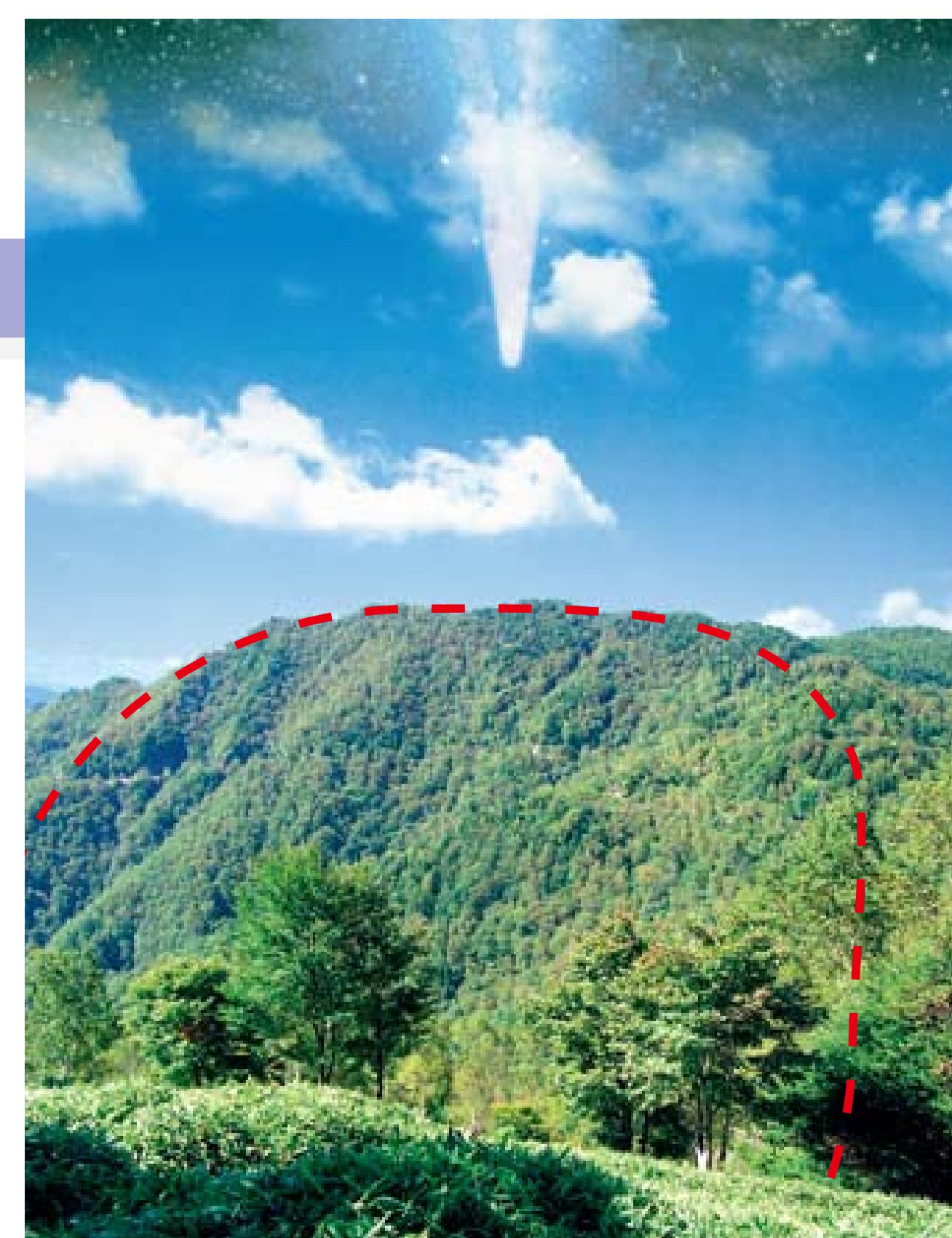
■南信濃自治振興センター

遠山川の埋没林

遠山川沿いの埋没林は、南信濃大島から木沢にかけて数多く見つかりました。木の種類としてはヒノキが最も多く、ついでクリ、ツガ、ケヤキなどがありました。これらの木のほとんどは直径50cm以上の大木です。中には直径1m以上の巨木や樹齢700年以上のヒノキもありました。大島、畠上、大淵付近の河原で観察することができます。

南信濃自治振興センター(埋没林の展示)

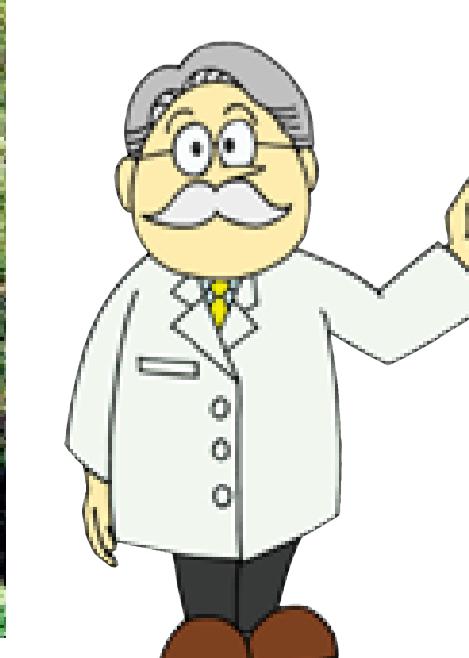
埋没林は河川改修工事によって多くの取り除かれています。それらの一部は、南信濃自治振興センターや旧木沢小学校、梨元いしや場で見ることができます。



■隕石が衝突してできたクレーターの地形

御池山隕石クレーター

飯田市上村の御池山では巨大な隕石の衝突でできた直径900mのクレーター(天体が衝突してできた円形の地形)を見ることができます。2~3万年前に直径45mの小惑星が衝突してできたものと考えられています。



隕石の衝突のあとじゃ

⑦ その他のジオサイト

下栗の里

中央構造線の東側(外帶)には、比較的なだらかな尾根や地すべり跡の畑作に適した土壤を利用して、標高の高い斜面に古くから集落が発達しました。飯田市上村下栗や大鹿村上蔵(わぞ)などの集落です。

かたい花こう岩の急な斜面で、土壤が貧弱なため集落がない中央構造線の西側と見比べると、地形や地質の違いが集落の立地に影響してきたことがよくわかります。

